

オミクロン株の感染拡大に対応した医療提供体制等

子どもの患者増などオミクロン株の感染拡大に対応するため、①医療提供体制、②自宅療養者等へのフォローアップ、③保健所体制などの対策を医療関係団体等と一層連携し、機動的に実施していく

I 医療提供体制

1 入院医療体制

(1) 症状に応じた適切な療養の実施

一般医療とのバランスも考慮しつつ、入院医療の逼迫を回避するため、症状に応じた適切な療養を実施することとし、

- ① 中等症(概ねⅡ程度)以上の者は入院
- ② 中等症(概ねⅠ程度)患者は宿泊療養施設での療養
- ③ 軽症・無症状者は自宅での療養 をそれぞれ基本として実施

(2) 入院病床(1,417床確保)及び宿泊療養施設(16施設、2,411室確保)の運用

- ① 患者急増を踏まえて、速やかにフェーズⅤ体制(1,400床2,400室程度)の構築に向け関係機関と調整

フェーズ		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ感染拡大期1	Ⅳ感染拡大期2	Ⅴ感染拡大特別期	
フェーズ切替の契機	病床利用率	10%未満	10%以上	20%以上	50%以上	総合的に判断 (800人以上)	
	新規感染者週平均 [週患者数/10万人対]	20人未満 [2.5人未満]	20人以上 [2.5人以上]	80人以上 [10人以上]	400人以上 [50人以上]		
体制	構築の考え方	20人の新規感染者に対応	80人の新規感染者に対応	400人の新規感染者に対応	800人の新規感染者に対応		
	病床	病床数	300床程度	600床程度	1,000床程度		1,200床程度
		うち重症	30床程度	60床程度	100床程度	120床程度	140床程度～
宿泊	室数	300室程度	1,000室程度	1,500室程度	2,000室程度	2,400室程度～	

※フェーズの切替は、病床利用率、新規感染者数のいずれかが次フェーズの区分に到達した時点で検討

- ② 宿泊療養施設において、1月23日から医師派遣施設を拡充(7→8施設)

(3) 小児患者への医療ケアの強化

① 病院

- ・ 既存の小児受入病院(19病院)に対して、受入拡充を要請するとともに、常勤小児科医が複数在籍するその他のコロナ対応病院(15病院)にも、小児受入を要請
- ・ 県立こども病院(現在7床)の受入拡充を検討

② 宿泊療養施設

小児用パルスオキシメーター、小児向け食事や間食等を配備

2 外来医療体制

- (1) 患者が円滑に相談・受診できるよう発熱等診療・検査医療機関を確保(1/20:1,458機関)
- (2) 陽性判明後も引き続き、医師会の協力により、健康観察や必要に応じた診療も実施

圏域	神戸	阪神	東播磨	北播磨	播磨姫路	但馬	丹波	淡路	計
指定数	372	473	191	75	184	61	38	64	1,458
うち公表数	246	291	92	35	140	27	20	44	895

II 自宅療養者等へのフォローアップ

1 「自宅療養者等相談支援センター」の設置

自宅療養者等の急増に対応するため、「自宅療養者等相談支援センター」を1月28日から新たに設置し、当センターにおいて、自宅療養者や濃厚接触者の①健康相談（24時間対応：最大50回線）、②医療機関案内、③配食等の生活支援対応などを実施する。

2 患者状況等に応じた健康観察等の実施

症状悪化の予防や早期発見に努めるため、パルスオキシメーターや血圧計の貸出、アプリの活用等、患者の状況等に応じた健康観察等を実施

特に小児患者対策として、小児用パルスオキシメーターを確保・配布するとともに、保護者への感染対策指導及び適切な健康観察を実施

3 往診・訪問看護及び外来診療の実施

(1) 保健師の家庭訪問等により、必要に応じた酸素吸入装置の活用や、医師による往診（対応医療機関440機関）等を実施（症状悪化時は、ccc-hyogoも活用して入院へ移行）

(2) 自宅療養者等の増加を踏まえ、県医師会と連携した研修等の実施（1月中予定）により、小児科等の往診対応医療機関を拡充

(3) 「自宅療養者等相談支援センター」からの紹介により、「発熱等診療・検査医療機関」等で外来診療を実施

4 経口抗ウイルス薬の配備

経口抗ウイルス薬（モルヌピラビル）を491薬局に配備済（1/22時点）
（県登録済み薬局数833件/約2,700件（1/19時点））

III 保健所体制

1 応援職員の派遣体制の強化

機動的な応援職員の派遣（1/13週：約500人/週→1/21以降：約1,000人/週）

2 積極的疫学調査のさらなる重点化の実施

保健所業務の逼迫状況に応じ、迅速な療養調整など「命を守ること」を最優先とするため、積極的疫学調査等のさらなる重点化を実施

区分	従来の重点化内容	さらなる重点化内容
患者本人	本人情報、症状等、 <u>行動歴の確認</u>	本人情報、症状等
濃厚接触者	同居家族・同居人を調査	患者本人から連絡（併せて相談支援センターを案内）
施設調査	感染拡大が懸念される社会福祉施設、医療機関、学校等を中心	重症化リスクの特に高い <u>高齢者施設、障害者等施設</u> を中心

3 保健所業務の効率化

発生届・追加情報提供書やHER-SYSを基に、

① 中等症以上及び重症化リスクの高い者について、保健所が迅速に療養区分を判断・対応

② 軽症・無症状者の自宅療養者等については、「自宅療養者等相談支援センター」を案内するとともに、疫学調査オンラインフォームに患者本人による情報入力も推進

IV その他

1 ワクチン接種の推進

県の大規模接種規模を拡大するとともに、市町とも連携して早期の追加接種を促進

2 無料検査の実施

県内約350カ所（約10,000人分/日）の体制構築を推進

実施カ所（1/24）：247カ所（約7,200人分/日）

検査実績（12/29～1/16（19日間））：14,919件数　うち陽性者239人